

インターバンクの声（2016年10月19日）

市場はドル買いを続けても差し支えないような確証を得ようとする動きと、利食いを中心にした売りが交錯する展開が続いている。ドルを買うか売るかの判断には、株価の動向も大きな材料だが、昨日のニューヨーク株式市場は、医療保険会社や動画配信会社などの四半期決算が底堅い内容だったことから買いが戻り、反発して終えている。値動きが読み難い原油価格は、米エネルギー情報局(EIA)の在庫統計で原油在庫の増加が予想されて一時売られるも、石油輸出国機構(OPEC)が先月の減産合意をまとめそうだとの見方に1バレル=50ドルを確保して取引を終えた。

9月の米消費者物価指数は市場予想通りとなったが、食品とエネルギーを除いたコア指数が弱かったとして、いったんはドル売りに反応した。ドイツ銀行の経営不安説については、ここ一週間ほどは俎上に上がる頻度が減っているが、下落が続いていたポンドは英国の欧州連合(EU)離脱について英政府の弁護人が議会の批准が必要になると表明したこと、9月の英消費者物価指数の伸びがポンド売りを止めた。足元で注目度が高い米国債利回りは、前日から若干下落した。要は、いくらかドル売りに傾けても良いような材料が多かったものの、株価の上昇と米国の利上げ観測が大きな下げを抑え込んだ格好だ。これでは中々レンジの外へ動き出すのは難しい。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。